

地域母子保健福祉情報紙 No.266

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

子育てを困らないお母さんを増やしたい

山口県萩市



萩市藤道市長（前列中央）を囲んで 後列は萩市健康増進課及び萩市保健推進協議会の皆さん 後列左端は山口県子ども政策課藤井主任

じめ健康増進課の方々、萩市保健推進協議会河村文江会長はじめ役員の方々にお話を伺った。聞き手：株式会社ロッテ広報部渉外課清水和正課長代理、本会議佐藤拓代会長、原澤勇理事長、鏑溝和子常務理事。

「基本ビジョン」を作成した。計画期間は 2027 年度までの 10 年間とされ、目標には、最終年に「社会増減のマイナスをゼロ」、「出生数を 300 人以上」とし、市民、民間団体、企業、行政が互いに連携し支え合いながら取り組んでいくこととしている。子どもを産み育てやすい環境づくり、市民全体の健康づくりは、萩市の重点施策の一つである。

推進員自身も楽しんで

工夫で対象者の関心をひいて

萩市で、市民の健康づくり、子育てしやすいまちづくりの一翼を担っているのが「萩市保健推進協議会」である。萩市では「保健推進員」として、乳幼児から高齢者までの市民の健康づくりに寄与することを目的とし、現在会員 174 名が、市協議会としての活動と支部（旧市町村）ごとの活動に取り組んでいる。

平成 30 年度「8020 の里賞（ロッテ賞）」において『優秀賞』を受賞した活動は、乳幼児期からのむし歯予防啓発のための健康劇。市の健康イベントや保育園を回り上演している（写真 2 頁）。全員がさまざまな役を練習し、実施日に参加できる人が役割を決め行う。親子に楽しみながらも印象付けるためには、練習は情熱いっぱい、当日

明治維新から 150 年、維新胎動の地、萩市は山口県北部に位置し、南東側は山が囲み、北西部を日本海に開く。

前号に続き、乳幼児期からの健康づくりの重要性の啓発と地域組織の育成支援を目的に本会議が実施している「8020 の里賞」において、平成 30 年度優秀賞を受賞した萩市を訪問し、藤道健二市長にもご同席いただき、地域組織活動の実際と同市の子育て世代包括支援センターを視察させていただくとともに、保健部河上屋里美次長は

みな健康で

子育てしやすいまちを目指して

萩市は、明治維新を牽引した地の一つであり風光明媚な地でもあることから、国内外から訪れる方も多いが、一方で、人口、出生数の減少が課題とされている。昭和 30 年の人口は 97,744 人、出生数は 1,918 人であったが、平成 30 年度末の人口は 47,099 人、出生数 194 人、人口は約半減、出生数は約 1/10 となった。

それらを踏まえ萩市では、2018 年に

今月のページ

- 子育てを困らないお母さんを増やしたい「山口県萩市」 1 ~ 4
- 予期せぬ妊娠に対する相談体制の現状と課題に関する調査結果報告③ 5
- 紙上セミナー：8020 の里づくり「お口の健康と全身の健康との関わりについてのお話」... 6 ~ 7
- 「ピアカウンセリング手法を用いた傾聴スキル」の研修会を実施して 8 ~ 9
- 令和 2 年度母子保健対策関係概算要求の概要 10 ~ 11
- 「健やか親子 21—8020 の里賞（ロッテ賞）—」各賞受賞団体決まる／ネウボラでの子育て・家族支援／編集誌 12